
 ニ ュ ー ス

日本の火山活動概況 (2006年11月~12月)



図 1. 2006年11月~12月に目立った活動があった火山

- ▲: 噴火した火山
●: 活動が活発もしくはやや活発な状況であった火山

●十勝岳 (43°25'05"N, 142°41'11"E)

62-2 火口では、2006年1月以降、噴煙活動や火口温度に低下傾向がみられるものの、依然として熱活動はやや活発な状態が続いており、噴煙高度は火口縁上概ね100~200mで経過した。

火山性地震は少ない状態で経過し、火山性微動は観測されなかった。地殻変動には特段の変化はなかった。

●樽前山 (42°41'26"N, 141°22'36"E)

山頂溶岩ドーム周辺のA火口およびB噴気孔群では依然として高温状態が続いていると推定される。各火口の噴煙活動に特段の変化はみられず、噴煙高度は火口縁上50~100mで推移した。

火山性地震は少ない状態で経過し、火山性微動は観測されなかった。地殻変動には特段の変化はなかった。

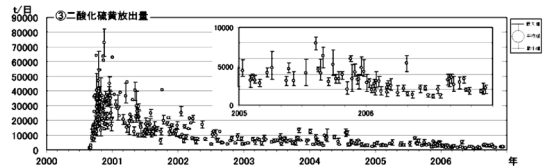


図 2. 三宅島 二酸化硫黄放出量の変化 (2000年1月~2006年12月)

●三宅島 (34°05'37"N, 139°31'34"E)

噴煙活動は引き続き活発で、多量の火山ガス(二酸化硫黄)の放出が続いている。

噴煙活動は活発な状態が続いており、噴煙高度は火口縁上概ね200~300mで推移した。

11月17日、12月19日に行った上空からの観測(海上保安庁及び東京消防庁の協力による)では、火口内の地形等に特に大きな変化はなく、火口内温度の最高は約280°C(11月17日)、110°C(12月19日)と依然として高温状態が続いていた。

11月29日、12月4日及び19日に実施した観測では、二酸化硫黄放出量は一日あたり1,400~2,800tで、依然として多量の火山ガスの放出が続いている。

火山性地震は増減を繰り返しながらやや多い状態が続いている。11月5日、29日及び12月30日に空振を伴う低周波地震¹⁾が発生した。これらの地震発生時の噴煙の状況には特段の変化はなく、地震発生後に行った現地調査では降灰は確認されず、地殻変動など他の観測データにも特段の変化はなかった。11月29日に火山性微動が2回観測されたが、いずれも振幅の小さく継続時間の短いものであった。

GPSによる地殻変動観測では、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなりながら、現在も継続している。また、地磁気全磁力観測では山体内部の熱の状態には特に大きな変化はなかった。

¹⁾三宅島では、空振を伴う低周波地震が発生した時に山頂火口から火山灰噴出を伴うことがある。

●福徳岡ノ場 (24°17.1'N, 141°28.9'E)

11月15日及び12月11日に海上自衛隊が、また、11月21日に第三管区海上保安本部が行った上空からの観測で、火山活動によるとみられる変色水が確認された。

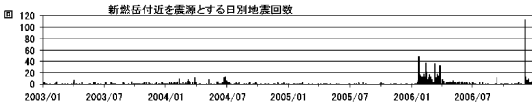


図 3. 霧島山（新燃岳）日別地震回数（2003年1月～2006年12月）

●霧島山（31°53'11"N, 130°55'08"E（高千穂峰）
（新燃岳の活動状況）

12月3日に新燃岳付近の浅い所を震源とする火山性地震が多発した。その後、火山性地震は消長を繰り返しながらやや多い状態で経過したが、12月14日以降はやや少ない状態となった。火山性微動は観測されなかった。

12月5日に行った現地調査では、噴気や火口の状況に特段の変化はなく、また、遠望カメラ（新燃岳火口の南西約7kmに設置）では、火口縁を超える噴気は観測されなかった。地殻変動には特段の変化はなかった。

▲桜島（31°34'38"N, 130°39'32"E（南岳）

南岳山頂火口では、11月4日、22日及び26日に爆発的噴火があったほか、小規模な噴火も時々発生した。昭和火口では、噴火は発生しなかったが、弱い噴気が時々観測された。

11月1日、30日及び12月25日に行った現地調査では、昭和火口周辺の熱活動に特段の変化はなかった。

火山性地震や火山性微動はやや多い状態が続いており、振幅や火山性微動の継続時間がやや増大する傾向が認められている。

地殻変動観測では、始良カルデラの地下深部へのマグマの蓄積を示す長期的な地殻変動は継続しているが、桜島直下への大規模なマグマの移動を示す地殻変動は認められていない。

●薩摩硫黄島（30°47'35"N, 130°18'19"E（硫黄岳）

硫黄岳山頂火口の噴煙活動は依然としてやや活発な状態が続いており、噴煙高度は火口縁上200～400mで推移した。

火山性地震はやや多い状態が続いている。振幅の小さく継続時間の短い火山性微動が時々観測された。

●口永良部島（30°26'36"N, 130°13'02"E（古岳）

火山性地震及び火山性微動がやや多く、新岳火口周辺で熱活動の高まりが観測されている。

火山性地震のやや多い状態が続いている。火山性微動は10月頃から増加し、25日から26日にかけて一時的に増加した。

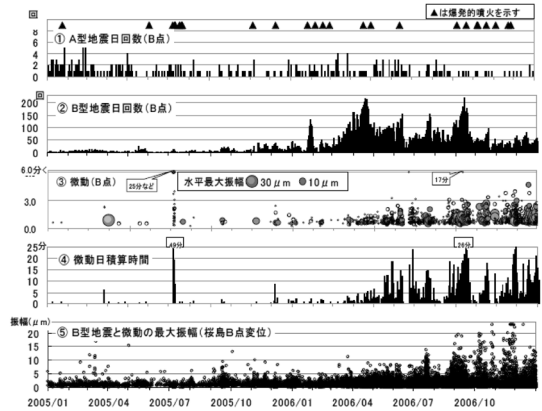


図 4. 桜島 火山性地震及び火山性微動の発生状況（2005年1月～2006年12月）

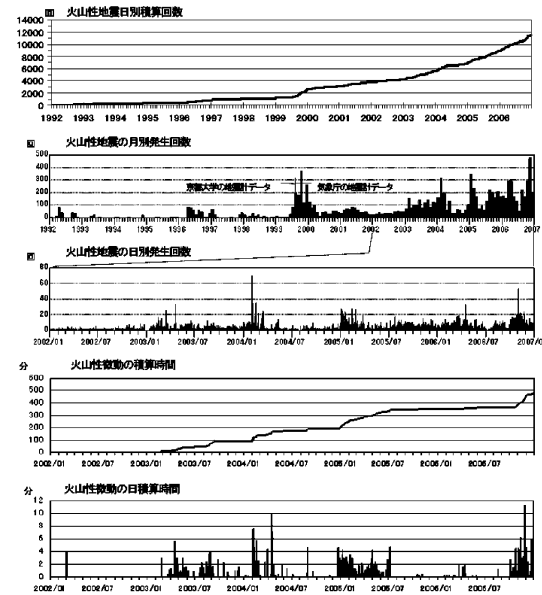


図 5. 口永良部島 火山性地震（1992年1月～2006年12月）及び火山性微動（2002年1月～2006年12月）の発生状況

1992年1月～1999年9月12日及び2005年12月15～28日は京都大学のデータを使用している。

10月30日に行った現地調査では、2006年5月に比べ新岳火口内及びその周辺で高温の領域の拡大が認められ、また、12月1日に行った上空からの観測（海上自衛隊の協力による）でも、新岳火口内及びその周辺で引き続き熱活動の高まりが認められた。地磁気全磁力観測では、新岳火口周辺で、地下の温度上昇に伴うとみられる変化が認められた。遠望カメラ（新岳の北西約4kmに設

置)による観測では新岳火口周辺の噴気地帯で高さ10m程度の弱い噴気が時々認められている。

京都大学防災研究所附属火山活動研究センター及び産業技術総合研究所のGPSによる地殻変動観測では、9月頃から11月頃にかけて、新岳火口付近で膨張を示す変化が認められた。また、気象庁が10月30日から11月1日にかけて新岳火口付近で稠密に行ったGPSによる地殻変動観測でも、新岳火口付近の膨張を示す変化を確認した。なお、火口付近での膨張を示す地殻変動は12月に入りやや鈍化した。

▲諏訪之瀬島 (29°38'18"N, 129°42'50"E (御岳))

11月7日、12月20日に爆発的噴火があったほか、小規模な噴火も時々発生した。十島(としま)村役場諏訪之瀬島出張所によると、11月4日、17日及び12月19日に集落(御岳の南南西約4km)で降灰が認められた。噴火活動に伴い火山性連続微動が発生した。火山性地震は多い状態で経過した。

(お知らせ)最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

火山活動解説資料

URL http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm

(文責:気象庁地震火山部火山課 相澤幸治)

○技術職員公募

【東京大学地震研究所】

1. 募集職種: 技術職員 (2名)
2. 勤務場所: 東京都文京区弥生 1-1-1
3. 職務内容: 地震や火山現象の正確な理解のために必要な、地震、地殻変動、電磁気、重力など、多種多様で高精度なデータの取得や蓄積を目的とした観測機器の設置、維持管理・保守、および観測機器の改良・開発における技術支援など。年間数十日程度の、陸上もしくは海上での野外活動が含まれる。
4. 応募資格: 4年制大学理工系学部卒業以上で、観測・計測あるいは計測機器に関連する、少なくとも5年程度以上の職務経験を有すること。ただし、大学院等における研究歴は資格要件の職務経験に含む。
5. 応募期限: 平成19年1月30日(火)午後5時必着
6. 採用予定時期: 平成19年4月1日
7. 本件に関する問い合わせ先:
東京大学地震研究所 教授 佐野 修
電話 03-5841-5892 e-mail osano@eri.u-tokyo.ac.jp
詳細は地震研究所ホームページ (<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp>)に掲載。

u-tokyo.ac.jp)に掲載。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに12月25日送信しました)

○教員公募

【東京工業大学大学院理工学研究科地球惑星科学専攻】

1. 募集人員: 助教授 1名
専門分野: 地球惑星科学(地球惑星内部物理学、宇宙地球化学など)自らの専門分野のほか、本専攻の他分野にも広く関心をもち、積極的に共同研究を展開できる活動の人材を強く望みます。
 2. 応募資格: 博士の学位を有する者
 3. 着任時期: 採用決定後、できるだけ早い時期を希望します。
 4. 提出書類
 - (1) 履歴書(市販のもので可)
 - (2) これまでの研究・教育の実績(2,000字程度)
 - (3) 研究業績リスト
 - A. 査読付き原著論文
 - B. プロシーディングス、総説など
 - C. 著書、その他特記すべき出版物
(いずれも和文のものは和文で表記すること)
 - (4) 主な原著論文の別刷(コピー可) 3篇以内
 - (5) 今後の研究・教育の計画・抱負(2,000字程度)
 - (6) 応募者について参考意見をうかがえる方(2名)の氏名および連絡先(所属、住所、E-mail)
 5. 応募締め切り: 2007年2月28日(水)必着
封筒の表に「助教授公募書類」と朱書して、できるだけ宅配便で送付してください。
 6. 提出書類の送付先及び問い合わせ先:
〒152-8551 東京都目黒区大岡山 2-12-1 I2-2
東京工業大学 大学院理工学研究科
地球惑星科学専攻 高橋栄一
E-mail: etakahas@geo.titech.ac.jp
Tel: 03-5734-2338
詳細 HP:
<http://www.geo.titech.ac.jp/koubo/koubo.html>
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに12月26日送信しました)
- #### ○技術職員募集について
- 【名古屋大学全学技術センター教育・研究技術支援室】
1. 身分: 国立大学法人職員
 2. 募集人員: 1名
 3. 採用時期: 平成19年4月1日(予定)